

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 千代 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

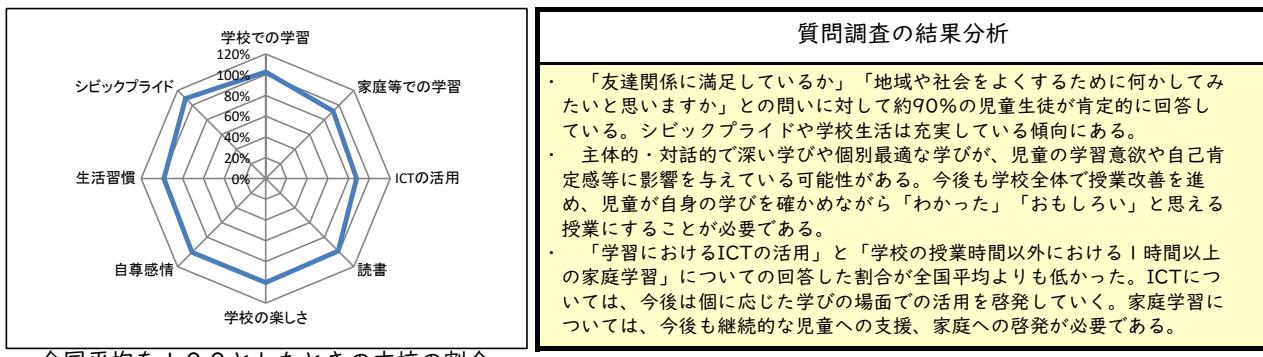
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	評価観点で見ると知識・技能は全国平均と同程度であるが、思考・判断・表現は全国平均を下回っている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全領域で全国平均よりも低い。記述式の問題を苦手としている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表などを結び付け、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	評価観点で見ると思考・判断・表現では全国平均を上回っている。しかし、知識・技能は全国平均よりも5%低い。領域で見ると「図形」「測定」の領域を苦手としている傾向がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	伴って変わるべき二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	評価観点で見ると知識・技能では全国平均を上回る一方で、思考・判断・表現は全国平均よりも低い。領域で見ると、「地球」を柱とする領域では全国平均よりも高く、「粒子」「生命」の二つの領域は全国平均よりも低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

児童が考えを広げ、深め、課題解決につながるような学習ができるよう、継続して学校全体で授業改善に取り組む。互いの意見を認め合える・尊重できる学級経営を基盤とし、学びの個性化を図ることや指導の個別化を充実させ、児童が主体的に自己決定をしていく姿を目指していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭で読書をする割合がやや低いことから、今後も図書館の充実と学校全体での読書活動の充実を図り、家庭での読書習慣も啓発していく。また、宿題以外にも自主学習の取組を推奨し、児童の自学ノートの紹介やAIドリルの活用等を通して、学ぶ楽しさ・面白さを広げ、学習意欲を高めるとともに、家庭学習の定着を図る。